

質問

インクルーシブ教育の考えは

教育長

共生社会の実現を進める



大垣 照子 議員

質問 小学校再編統合が迫っているが、バスが通わない地域の児童への対策は。

教育魅力課長 保護者が近くのバス停や待合所、児童たちが合流する場所まで送る支援として、通学助成の拡充・緩和を検討している。

質問 保護者が朝晩の送迎は大変。奥出雲交通との協議で貸し切り対応はできないか。

教育魅力課長 家庭からバス停まで遠くなる児童は、殆んどいないと認識している。

質問 慣れるまでは、これまでの学校の教師の配置や加配の協議はなされているか。

教育長 統合前後の

加配や学習困難な児童もあり、加配をお願いしている。

質問 インクルーシブ教育は障害の有無に関わらず、全ての子どもが共に学び合う仕組みで、共生社会の形成に向けた教育制度。この教育への考えと取り組みを問う。

教育長 日本においてはインクルーシブ教育の過渡期にあると認識し、教育理念は共生社会の実現と考え、推進の必要がある。国や県の考え方を教育委員会と、学校で正しく共通理解を進める。

質問 いじめや嫌がらせが不登校につながることもあり、互いを尊重し思いやりを育む等、学校教育の中でのかんがえは。

教育長 今後は新しいいいかと思う。特に最近、不登校等、これ等に関連して、教育の大

質問 最近、豪雨等の災害が大型化している。本町においては、山林管理が高齢化等により困難に。竹林化は豪雨時の土砂災害の発生や獣害の元になる。竹の資源化で、環境改善や

良の効果もあると聞いている。製造コストに課題もあるが竹やぶ災害もあり技術開発や導入事例を研究し検討を進めている。

町長 堆肥製造の副資材として、土壌改

繁茂する竹の資源化を



竹チップパーシュレッダーで竹パウダーに(資料)



竹パウダーに米ヌカを投入しボカシをつくる(資料)